

2018 年度第 1 回学生との意見交換会を実施しました

7月2日(月)、理工学部では入学して3ヶ月が経過した1年生女子学生を対象に、受験期の情報収集や本学理工学部の独自科目などをテーマに意見交換会を実施しました。

その中でも2年次から取得可能な学系横断プログラム(所属学系分野を超えて幅広く学ぶプログラム)や理工実験実習Ⅰ(6つの学系からなる総合理工学科の特徴を活かし、全ての学系領域をカバーする実験や実習を行う必修科目)について女子学生ならではの視点から意見を聞くことができました。

また、「夏休み科学体験教室」に向けた話から、必修科目「プロジェクトⅠ」で小中学生にわかりやすい実験を提供するため、工夫を凝らす様子が垣間見えました。

意見交換会の内容は後日総合理工学科オリジナルサイトに掲載しますので、よろしければご覧ください。

■参加学生(1年生以下6名)

吉野 果歩(生命科学・化学系)、西村 恵那(機械工学系)、森島 千晶(機械工学系)、芦沢 遥(建築学系)、木村 春花(環境科学系)、竹内 夏月乃(環境科学系)



電気電子工学系 小寺准教授の論文が IEEE の論文誌に掲載されました

電気電子学系 小寺敏郎准教授が執筆した論文“Unidirectional Loop Metamaterials (ULM) as Magnetless Artificial Ferrimagnetic Materials: Principles and Applications” (訳題: 磁性体を含まずにフェリ磁性体の特性を示す単方向ループメタマテリアルの原理と応用)が IEEE の論文誌 Antennas and Wireless Propagation Letters に掲載されました。これまでに小寺准教授はジャイロ磁気特性の人工的創出について技術を確認してきましたが、この論文は新たに構造内の高周波電流を主体とする理論を提案しており、この理論は従来の磁性体の動作をも説明しうるもので、新規性が極めて高い論文です。

■論文名

Toshiro Kodera, Christophe Caloz, “Unidirectional Loop Metamaterials (ULM) as Magnetless Artificial Ferrimagnetic Materials: Principles and Applications,” IEEE Antennas and Wireless Propagation Letters, June 2018.

環境科学系 西浦教授が町田市のシンポジウムで講演しました

6月25日(月)、東京都町田市にて開催された多摩都市モノレール町田方面延伸促進協議会シンポジウムで環境科学系 西浦定継教授が基調講演をしました。

この協議会は多摩都市モノレールを町田市まで延長することを期待して組織されており、今回のシンポジウムでは多摩ニュータウン周辺の都市計画が専門の西浦教授が講演する運びとなりました。

また西浦教授は基調講演のあとに実施されたパネルディスカッションにパネリストとして参加しました。

■基調講演タイトル:

『多摩都市モノレールと街の関わりについて』

■パネルディスカッション タイトル:

『多摩都市モノレールが変える私たちの暮らし』



大学院生(環境システム学専攻)の論文が大気環境学会誌に掲載されました

環境システム学専攻 博士前期課程2年生 吉岡 実里さんの論文が大気環境学会誌(53巻4号)に掲載されました。この研究は2010年に東京湾沿岸部で観測されたOx高濃度のメカニズムについてモデルを用いて考察したもので、昨年度イタリア ポローニャにて開催された国際学会「18th International Conference on Harmonisation within Atmospheric Dispersion Modelling for Regulatory Purposes (HARMO18)」で発表した内容がベースとなっています。

現在は、2016~2018年の夏季に実施したゾンデ観測のデータをもとに、同論文でも使用したシミュレーションモデルの再現性評価と精度向上に向けた研究を進めています。

■研究論文(ノート)

2010年夏季に首都圏で発生したオキシダント高濃度事象のモデル解析